

井上通信

No.17

このたび、高知市とネーミングライツパートナー契約を行い、高知市東部総合運動場のネーミングライツパートナーとなりました。東部総合運動場は、当社創業の地である南国市稲生の近くに位置し、地元住民や従業員にも親しみ深い施設です。今年も当社の創業140周年にあたる年でもありますので、思い切った応募に踏み切りました。

愛称を決定するにあたっては、社内公募を実施しました。最終的には三十一案が集まり、その中で従業員で投票にて最も多い得票数の愛称に決定しました。その愛称は、当社が地元に貢献するという決意を込めて、「INOUE・東部スポーツパーク」としました。当分の間は、聞きなれない愛称に戸惑う方もいらっしゃるかもしれませんが、看板の設置や広報活動を行い、施設へご来場いただく皆様に親しまれる愛称となるよう粉骨砕身がんばります!

ちなみに愛称は2024年10月より、使用をされます。これより順次、



井上社長の一言

万葉集に一番多く登場する花は何だと思いますか? 答えは「梅」。そしてその次が「萩」だそうです。この萩という花は、さほど華やかな花ではありませんが風情があり、秋といえば真っ先に頭に浮かぶ花のひとつではないでしょうか。字の成り立ちも日本で出来た造語だそうです。それほど日本の秋を代表する花だという事です。猛暑も終わり10月から当社は新年度となります。心機一転、また今年度も新たなチャレンジを続けて行きます!

施設内に愛称の掲示物を設置して参りますので、お近くに立ち寄る機会があれば、是非ご覧になってみてください!

井上のお石灰な話

土佐石灰の歴史 編

土佐の石灰生産を行う各社は、石灰の需要と供給が増えるにつれ、生産過剰と競争乱売の問題が浮き彫りになってきました。この状況を打開するために業者が集まって値段を統一する目的で土佐石灰協同組合が大正4年に組織されました。3名の発起人により実現したのですが、その内の一人が当社の先代社長 井上卯太郎その人でした。その後昭和16年には、工業組合法により、土佐石灰工業組合が設立されます。この大正4年~昭和16年の25年間、石灰の生産量は173万俵から512万俵と約3倍へ飛躍的に向上しました。組合が設立して正常に運用ができるまでには紆余曲折あったようですが、その結果強固な土佐石灰の下地が出来上がりました。

この犬噛まん? 融ってもかまんろうか...

土佐の方言紹介
「かまん」

いいよ、大丈夫などの意。

承認や許可のための「構わない」の意味で使用されます。

強調する時は「かまんかまん」(大丈夫大丈夫)という風に続けて2回使います。これによって相手に大丈夫だから気にしないでという気遣いの気持ちが含まれるのです。何事も「かまんよ」と受け入れる広い心を持ちたいですね。



井上ワイナリー だより

この原稿を書いている9月上旬は標高の高い圃場や赤品種の仕込みへと切替わる時期のため白・赤ワインの作業が交差し大忙しです。赤のプレス(注: 醸した皮や種を絞る)が始まるとプレス機の隣で軽い昼食を取りながらプレスラン(注: プレスマシンで圧力を掛けたときに得られる果汁)の風味をチェックして搾汁具合を決めていきます。今年は梅雨も収穫までの雨が少なかったこともあり健全果主体で糖・酸も高いブドウが収穫出来ていて良いビンテージになりそうです。よさこい祭りと同時に始まった今年の収穫と仕込みですが朝晩は涼しくなり畑も秋を感じる季節になりました。美味しい秋の味覚も始めるころ、10月3日発売の「土佐ワインヌーボー」と是非お楽しみいただきたいです。

